

新年の始まりの月，学期の最後の月

さて1月号ということで新年明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。といってもここ中国では、日本の正月のような特別な雰囲気は特に感じられない。というのも、旧暦の影響が大きい中国では春節という旧正月のほうが重視されているからだ。去年は1月だったが今年は2月19日、2月号でこれについて紹介したいと思う。中国でも元旦は多くの学校や企業が休業となるが、1月2日からは通常通りということが少なくない。

私の場合は、元旦から3日間休暇をとることができ、この期間を利用して太原大学を訪問し、学生や職員と交流した。私が訪れたキャンパスは比較的新しく設置されたキャンパスで、周囲を見渡せば何もないような風景の中に、そのキャンパスはある。そこでも中国人の学生や先生に温かく歓迎された。そこには留学生は基本的にいないが、地域の交換留学制度を利用して留学している日本人が1人いた。彼の授業は基本的にすべて1対1で行われ、普段も学内の学生と中国語だけで話しているため、非常に充実しているという。

今月は試験の月でもある。この時期山西大学では、学内の図書館に行けば学習のスペースが期末試験の準備に取り組む多くの本科生でほとんどまわっている状態だ。語学留学生の期末試験も同時期に行われる。この時期は大学院生も研究を完成させるための活動をする。留学生のところにも、研究のためのアンケート形式の調査などがまわってくる。中国語の語学検定試験である漢語水平考試(HSK)もこの時期に学内で行われ、私も受験した。



夜も自習する学生の多い1月の図書館

同じころ、中国各地の様々な企業や団体などが集まり交流を広げるイベントが山西省で開催され、これに参加した。そこで山西省を中心とした企業関係者、そして政協主席(省の首領のひとり)をはじめとする行政関係者など、幅広く多くの人々と交流を深めた。その中で、ある中国人はこのように顔を合わせたら皆友人だと述べ、また私をあつくもてなしてくれた中国人は、このようにするのは当たり前だとし、決して面倒くさがらず相手個人と意識的に向き合おうとする中国人をあらためて感じた。



多くの企業などが集まった省内のイベント

さて乾燥していて普段雨もあまり降らない太原だが、今月は雪もそれなりに降った。山西大学のキャンパスも雪で覆われ、学内の広い公園や木々がきれいな雪景色へと変わった。生まれて初めて見る雪に興奮する南方からの外国人もいた。



キャンパス内の雪

杉浦聡太